

■当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	無期限 (信託約款所定の信託終了事由が生じた場合に償還されることがあります。)
運用方針	個人家計の「資産形成」を支援する目的で、「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資をします。
主要運用対象	主として国内外の有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	①「株式」に投資します。 ②「グローバル」な視点で投資します。 ③運用は「ファンド・オブ・ファンズ」形式で行います。 ④実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します。 ⑤株価が割高と思われるときには、現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます。
組入制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。ただし、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会規則に定めるエクスポージャーがリスクスルーできる場合に該当しないときは、当該投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資には制限を設けません。 ④株式への直接投資は行いません。 ⑤デリバティブの直接利用は行いません。 ⑥一般社団法人投資信託協会規則に定める一者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
分配方針	毎決算時、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、投資環境や市況動向等を勘案して決定します(分配を行わないことがあります。)。当ファンドは分配金再投資専用であるため、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。

# 『ユニオンファンド』

## 運用報告書(全体版)

第14期(決算日2022年9月30日)

作成対象期間(2021年10月1日～2022年9月30日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび「ユニオンファンド」は、第14期決算を迎えました。ここに期中の運用状況等についてご報告申し上げます。

当ファンドは2008年のリーマンショックの荒波の中で運用がスタートし、以来、信じてお金を託していただいているお客様と、成長を続ける世界の企業と共に、さまざまな危機を乗り越えて今日に至っています。新型コロナウイルス感染症で急激に落ち込んだ景気と株価は大きく持ち直しました。ここ1年ほどは世界的なインフレと金融引き締めによって難しい環境にはありますが、今後も「よりよい社会にしたい」という人間の強い願いと行動によって、世界経済は成長を続けていくものと確信しています。

皆様からお預かりした大切なご資金は、選び抜いたファンドを通じて世界中の選び抜かれた企業に投資しています。皆様の資産形成のお役に立てるよう邁進してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

あなたと大切な方の未来のために

**ユニオン投信 Union Asset Management**

〒390-0815

長野県松本市深志一丁目1番21号  
中田齒科ビル5F

### 本書の記載内容等に関するお問い合わせ先

ユニオン投信株式会社 業務管理部

電話番号：0263-38-0725

受付時間：午前9時～午後5時

(土日祝日、年末年始を除きます。)

ホームページ：<http://www.unionam.co.jp/>

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			投資信託証券 組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		
	円	円	%	%	百万円
10期 (2018年10月1日)	24,929	0	△ 0.2	92.5	6,483
11期 (2019年9月30日)	23,163	0	△ 7.1	87.9	6,704
12期 (2020年9月30日)	24,307	0	4.9	88.6	7,654
13期 (2021年9月30日)	30,215	0	24.3	86.2	9,707
14期 (2022年9月30日)	28,554	0	△ 5.5	85.1	9,814

(注1) 基準価額(分配落)、税込分配金は1万円当たり、期中騰落率は前期末比で表示しています。

(注2) 期中騰落率、組入比率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

(注3) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。よって上表に併記していません。

## ■当期中の基準価額等の推移

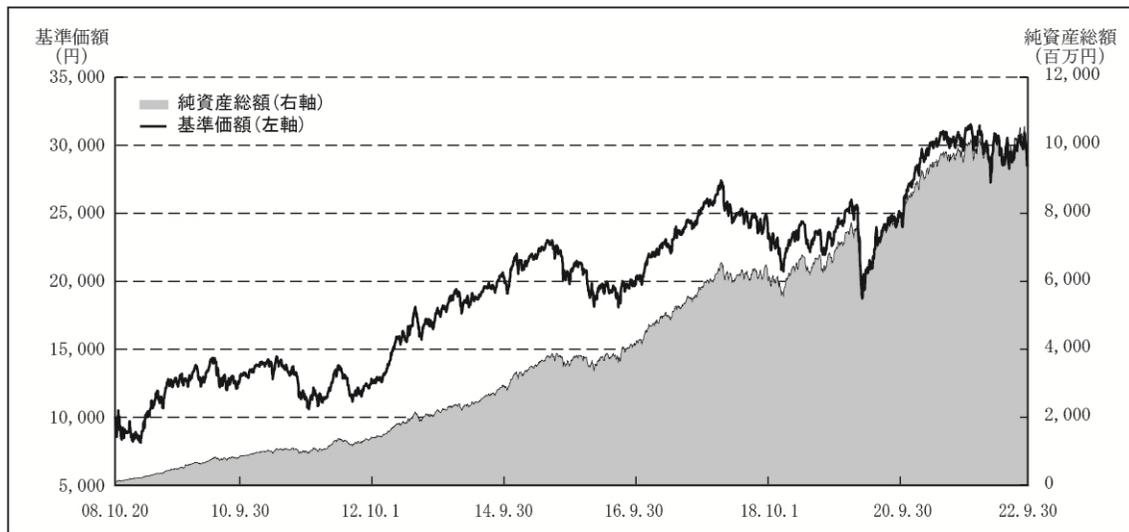
年月日	基準価額		投資信託証券 組入比率	純資産総額
	騰落率			
(期首)	円	%	%	百万円
2021年9月30日	30,215	—	86.2	9,707
10月末	31,101	2.9	86.7	9,978
11月末	29,943	△ 0.9	85.8	9,657
12月末	31,062	2.8	86.4	10,093
2022年1月末	29,467	△ 2.5	85.1	9,645
2月末	28,874	△ 4.4	84.2	9,515
3月末	30,870	2.2	84.9	10,228
4月末	29,243	△ 3.2	83.7	9,738
5月末	29,481	△ 2.4	84.0	9,886
6月末	29,447	△ 2.5	84.6	9,951
7月末	29,985	△ 0.8	85.3	10,204
8月末	29,956	△ 0.9	85.0	10,236
(期末)				
2022年9月30日	28,554	△ 5.5	85.1	9,814

(注1) 基準価額は1万円当たり、騰落率は期首比で表示しています。

(注2) 騰落率、組入比率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

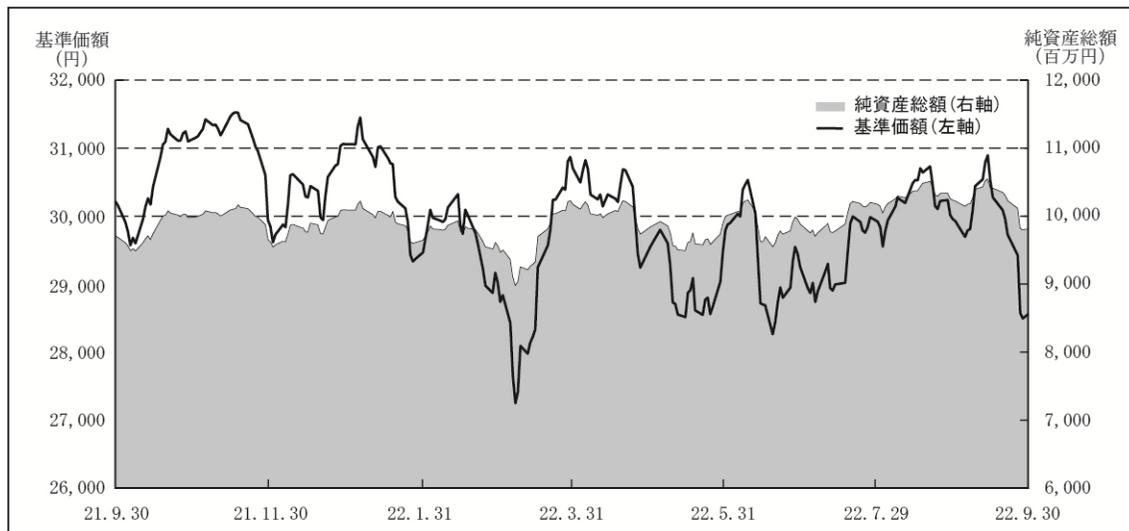
(注3) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。よって上表に併記していません。

■ 設定以来の基準価額等の推移 (2008年10月20日～2022年9月30日)



(注) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。基準価額がファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

■ 当期中の基準価額等の推移 (2021年9月30日～2022年9月30日)



(注) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。基準価額がファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

## ■当期の基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は30,000円を挟んで上下動を繰り返し、若干下落して終わりました。世界の株式市場は総じて2022年に入ってから大きく下落しましたが、為替市場で円安が進んだことから、外国株式の円換算評価額が増大した分だけ下落率が小幅にとどまる結果となりました。株価が軟調に推移した最大の理由はインフレの急速な広がりでした。これに対応して金融政策が引き締めへ転換し、景気後退懸念が広がったことが株価を押し下げました。ドル高円安は、主に米国の長短金利が急速に上昇し、日本との金利差が拡大したことから、ドル買いが続いたことによるものです。

以上の投資環境のもと、組入ファンドのうちキャピタルFを除く5本のファンドが値下がりし、当ファンドの基準価額のマイナス要因となりました。キャピタルF（前期末比+1.8%）は主として欧米株に投資しており、米国株が大幅に値下がりしたもののドル高がプラスとなりました。ハリスF（ $\Delta 2.8\%$ ）も投資先地域はほぼ同じですが、景気敏感株の割合が多めであり、景気減速の影響を受けたために小幅ながら値下がりしました。このほかのファンドは、さわかみF（ $\Delta 7.2\%$ ）、コムジェストEMF（ $\Delta 8.6\%$ ）、スパークスF（ $\Delta 9.8\%$ ）、コムジェストEUF（ $\Delta 10.5\%$ ）と値下がりして終わりました。

（注）当運用報告書（全体版）では、組入ファンドの名称を以下のとおり省略して記載することがあります。

- ・「さわかみファンド」：さわかみF
- ・「スパークス・集中投資・日本株ファンドS〈適格機関投資家限定〉」：スパークスF
- ・「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ」：キャピタルF
- ・「ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007（適格機関投資家専用）」：ハリスF
- ・「コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90（適格機関投資家限定）」：コムジェストEUF
- ・「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95（適格機関投資家限定）」：コムジェストEMF

## ■当期の投資環境

### 【株式市場の動き】

当期の株式市場は、インフレの加速と、それを受けて各国中央銀行が金融引き締めを進めたことが逆風となり、全般に冴えない展開となりました。

インフレが進んだのは、2020年春から世界に広がった新型コロナウイルス感染症による影響が大きいと考えられます。ポイントは二つで、一つは供給網（サプライチェーン）の混乱です。グローバル化の進展で、モノづくりには多くの国が関与するようになりましたが、コロナ禍で製造が困難になる事態があちこちで生じ、生産の混乱が予想外に長期化しました。もう一つのポイントは需要の回復です。コロナ禍による経済の急激な落ち込みを和らげるため、世界的に金融財政政策が大胆に実施されましたが、コロナ感染の鈍化後もその効果が残り、需要が拡大し続ける状況となりました。このように供給の回復が需要の回復に追いつかなかったことがインフレ加速の根底にあると考えられます。また、大規模な金融緩和によってカネ余り状態だったことも、インフレが大幅に進んだ背景と言えます。

インフレが予想を上回るピッチで加速する状況を憂慮し、2021年後半以降、各国の中央銀行は政策金利の引き上げを続けました。米国では、FRB（連邦準備制度理事会）をはじめとしてインフ

レは一時的と見る向きが多かったのですが、2021年秋にはF R Bも状況判断を切り替え、利上げへの転換を決めました。

米国では当初、政策金利が引き上げられても景気と企業業績の好調を支えに株価はまだまだ上がるとの予想が大勢を占め、実際年末あたりまで株価は概ね堅調でした。しかし2022年に入ってから、物価上昇に賃上げが追い付かず消費が徐々に減速しました。そして3月には政策金利の引き上げが始まり、5月からは毎回0.75ポイントという異例の大幅な利上げが続きました。2021年末まで世界の株式市場をリードしてきた米国株は、こうした環境の悪化を受けて、当期末まで数度の反発を交えながらもほぼ一貫して下落しました。

欧州においても物価上昇は激しく、株価の押し下げ要因となりました。ロシアのウクライナ侵攻と西側諸国による対ロシア経済制裁等を受けて、原油や天然ガスの供給が細り、これらの価格が急騰したことも、インフレに拍車をかけました。景気の弱さを理由に利上げには慎重姿勢を続けてきたE C B（欧州中央銀行）も、7月に利上げに踏み切りました。景気も全体として軟化し続けたため、欧州株は下落しました。

中国は、不動産セクターの悪化が止まらなかったほか、コロナ感染が発生するたびに厳しい都市封鎖を繰り返したことで、景気は鈍化を続けました。他の新興国の中には比較的堅調な経済成長を続けるところもありましたが、新興国全体の景気減速傾向は変わりませんでした。欧米の金利上昇を受けて、新興国から資金が引き揚げられたことも加わり、株価は全般に下落して終わりました。

日本株は、コロナ感染の度重なる拡大で景気が失速する局面もありましたが、欧米株とは異なり、2021年の初めごろから株価がやや弱含みの推移にとどまったことや、インフレが比較的穏やかで、日銀が金融緩和策を継続したことなどから、株価は下落したものの相対的に小幅なもので済みました。

## 【為替市場の動き】

当期はドル高円安が急速に進みました。米国の長短金利が大幅に上がる一方で、日本では金融緩和が続いたため、日米の金利差が大きく開いたことによります。欧州ではE C Bが利上げに舵を切ったものの、米国に比べて金利が低い状態が続いたため、ユーロは対ドルで下落しました。ただ、円下落がより大きかったため、ユーロは対円では若干上昇しました。なお、当期はエネルギー価格の上昇を通じた日欧の貿易赤字拡大も為替レートに影響したと見られます。石油の純輸出国である米国にこの面で強みがあったことも、ドル高の一因と考えられます。新興国通貨はドルに対しては弱めでしたが、対円では大きく値上がりしました。

## ■当期の運用状況

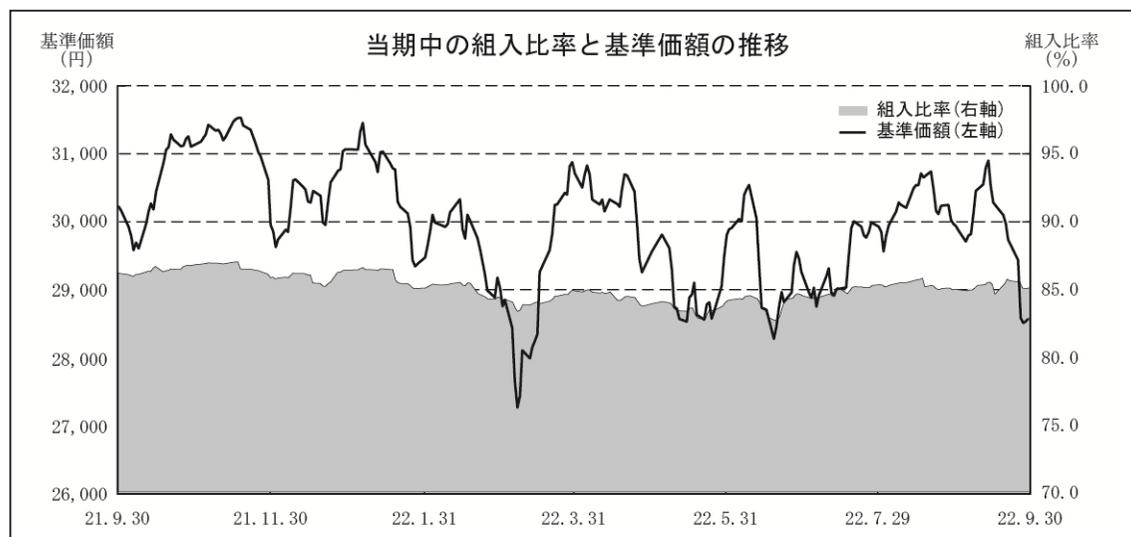
当期の前半は、株価の割高感、インフレ、金融引き締め、景気後退懸念と、投資環境が悪化する条件が揃っているとの判断から、積極的な買い増しを見送りました。当期の後半は、ある程度の株価調整が進んだと考え、主に5月以降の株価軟調場面を中心に、数回に分けて買い増しを行ってきました。なお売却は行いませんでした。前期は買い増しを全く行わず<sup>(注)</sup>、コムジェストEMFとハリスFの部分売却のみを行ったのに対し、当期は徐々に方向転換したことになります。

(注) ハリスFの分配金再投資による買付を除きます。

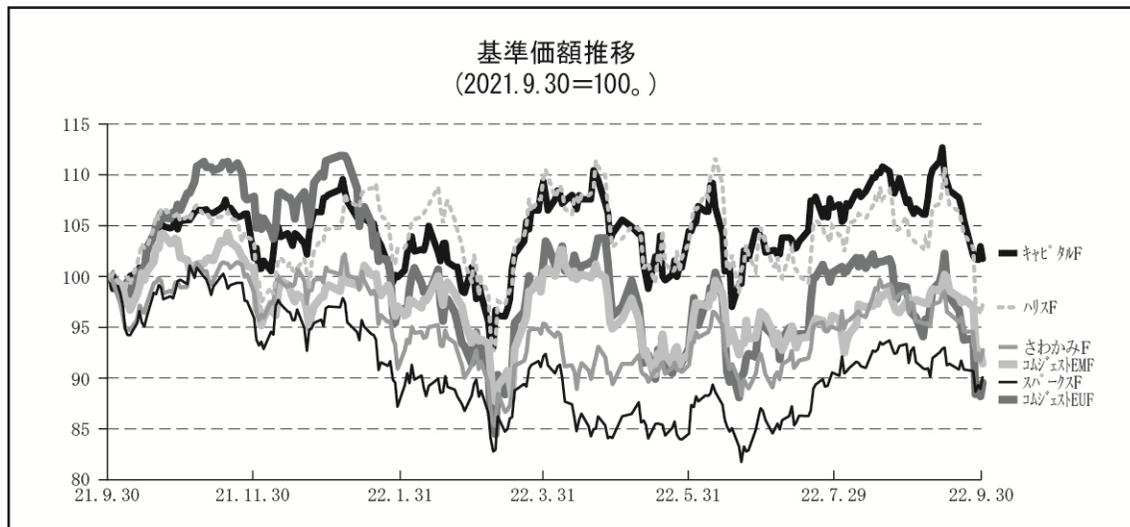
買い増しを行ったのは、スパークスF、コムジェストEUF、キャピタルFのほか、ハリスFも若干買い付けました。買い付け額は合計で4億6,000万円でした。

以上の結果、全体の組入比率は、期首の86.2%に対し、2021年11月には株価上昇により87.0%に高まりましたが、2022年初からの株価下落で組入ファンドの評価額が減少したため、2022年6月に82.7%まで低下しました。その後は買い増しにより若干上昇に転じ、期末は85.1%でした。

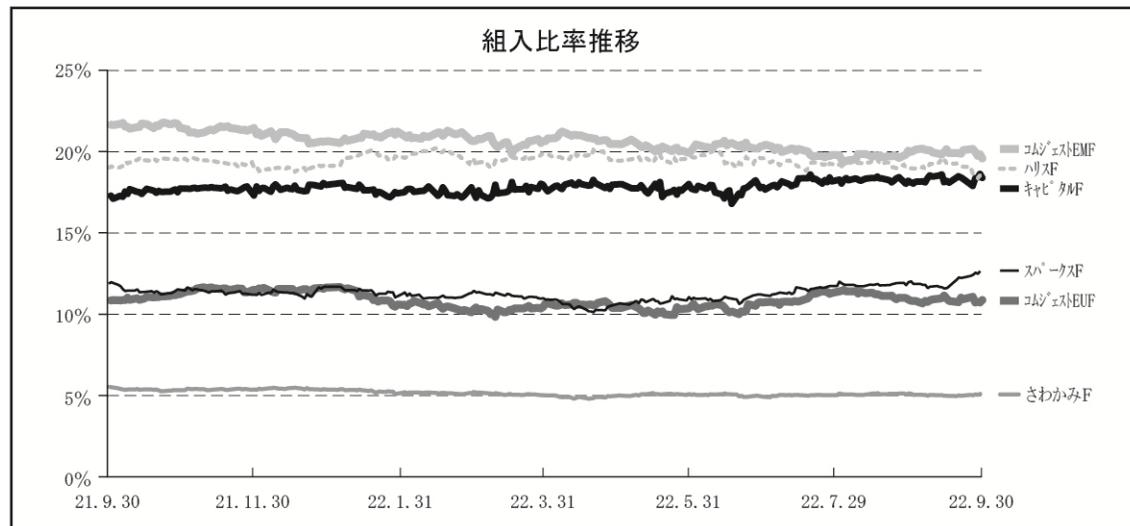
期末のファンド別組入比率は、コムジェストEMF 19.6%、ハリスF 18.6%、キャピタルF 18.4%、スパークスF 12.6%、コムジェストEUF 10.9%、さわかみF 5.1%でした。



【参考情報】当期中の組入ファンドの状況



(注) ハリスFは分配金再投資基準価額で計算しています。



## ■ベンチマーク

当ファンドは、比較できる適切な指数が存在しないため、運用の目標とするベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

## ■分配金

基準価額の水準、投資環境、運用の安定等を考慮し、当期は分配を行わないこととしました。

なお、収益分配に充てなかった利益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（2021年10月1日～2022年9月30日）

（1万口当たり、税込み）

項目		当期
当期分配金	(円)	—
(対基準価額比率)	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	19,092

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満切捨てで表示しています。そのため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金と一致しないことがあります。

## ■今後の運用方針

少なくとも当面は厳しい投資環境が続く可能性が大きいと考えています。背景はインフレの進行とそれに対応した中央銀行の金融引き締め継続です。現在の焦点は引き締めによって景気後退に陥るか、さらには企業業績が悪化するかどうか、という点にあります。

このうち、そもそもの問題であるインフレについては、世界的に進む景気の鈍化で需要が弱まり始めていること、供給網（サプライチェーン）の予想外の混乱も徐々に改善に向かっていると見られることから、次第にピークアウトし、2023年後半にはインフレの鈍化がかなり鮮明になると見えています。ただ、インフレ率の水準はまだ非常に高いため、中央銀行による利上げやQTと呼ばれる量的引き締めは当面続くと見られます。

世界の景気は、物価高騰で実質所得が伸びないため消費が減速しつつある上に、金利上昇がもたらす景気全般の押し下げ効果が本格化するのはいずれからと思われれますから、しばらく明るい話は限られると予想しています。好景気の間に増えてしまった債務が返済できないデフォルトといった厳しい事態が広がることも無いとは言えません。

こうした経済状況を受けて、株式市場では悲観的な見方が支配的となる一方、すでにそうした厳しい状況はここまでの株価下落にある程度反映されているという面もあります。足元の苦しい経済状態と、その先の景気回復への明るい期待とが綱引き状態になり、株価の上下変動はしばらく大きい状態が続くと見えています。

ただ、これは景気が良くなったり悪くなったりするという、よくある景気循環の中での話です。私たちが投資をする際に最も重視しているのは、今の景気の変動ではなく、将来の経済の水準です。それは時間の経過とともに今よりかなり高くなっているだろうと考えられます。株価は短期的には景気変動や投資家の心理で上下に変動するのが常ですが、肝心なのは、そうした変動を繰り返しつつ、長期の経済成長を背景に株価はトレンドとしては上昇を続けるということです。

そう考えますと、逆風が吹いている現在の環境は、未来に向けて株式投資をするにはむしろ好機と言えます。過去数年よりも積極的に投資を進めてよい状況に向かっていると判断しており、当面は慎重姿勢を取りつつも、より前向きに買い増しを進めていきたいと考えています。

#### ■ 1万口当たりの費用明細 (2021年10月1日～2022年9月30日)

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	263 (164) ( 89) ( 10)	0.880 (0.550) (0.297) (0.033)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	5 ( 5)	0.017 (0.017)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 (各月末の残存受益権口数の単純平均) 金銭信託にかかる手数料等
合計	267	0.897	
期中の平均基準価額は、29,832円です。			

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

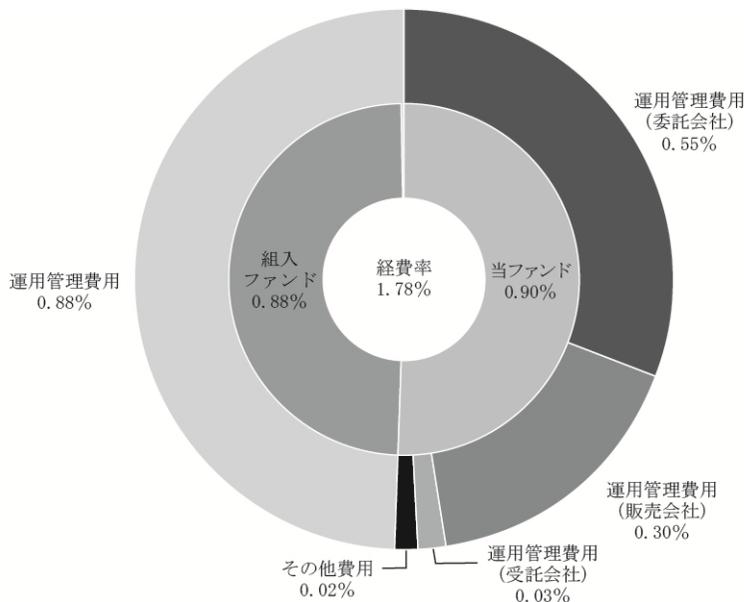
(注2) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期間における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては、「組入投資信託証券の運用内容」に表示しています。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額 (各月末の基準価額の単純平均) で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

**【参考情報】経費率（組入ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.78%です。



経費率 (①+②)	1.78%
①当ファンドの費用の比率	0.90%
②組入ファンドの運用管理費用の比率	0.88%

- (注1) ①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。また、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税ならびに当ファンドが組み入れている投資信託証券（組入ファンド）が支払った費用を含みません。
- (注2) ②の費用は、期中の各月末の各組入ファンドの組入比率に、当該組入ファンドの信託報酬率（信託報酬率が変動する場合はその上限の率）を乗じたものの単純平均です。
- (注3) 率および比率は、年率換算した値で、小数第3位四捨五入で表示しています。
- (注4) 当参考情報は、注1から注3までの前提条件をもとに算出したものであるため、あくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。また、組入ファンドには、運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、当参考情報には含まれていません。

■売買および取引の状況（2021年10月1日～2022年9月30日）

投資信託証券

銘柄		当 期			
		買 付		売 付	
		単位数・口数 (千口)	金額 (千円)	単位数・口数 (千口)	金額 (千円)
国内	スパークス・集中投資・日本株 ファンドS	35,866	200,000	—	—
	コムジエスト・ヨーロッパ・ファン ド90	83,108	130,000	—	—
	ALAMCO ハリス グローバル バリュー株ファンド 2007	20,615	30,000	—	—
外国	キャピタル・グループ・グローバル ・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ	19	100,000	—	—

(注1) 金額は、受渡代金です。

(注2) 単位未満切捨てで表示しています。

■利害関係人との取引状況等（2021年10月1日～2022年9月30日）

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2021年10月1日～2022年9月30日)

当期における自己取引はありません。

■自社による当ファンドの設定・解約状況（2021年10月1日～2022年9月30日）

期首残高 (元本) (百万円)	当期設定 元本 (百万円)	当期解約 元本 (百万円)	期末残高 (元本) (百万円)	取引の理由
19	—	4	14	自社財産の運用を目的とした取得等

(注) 単位未満切捨てで表示しています。

## ■組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建投資信託証券の明細

銘柄名	期首 (前期末)	当期末 (2022年9月30日現在)		
	単位数・口数 (千口)	単位数・口数 (千口)	評価額 (千円)	組入比率 (%)
株式ファンド (日本)				
コムジエスト・エマージングマー ケッツ・ファンド 95	2,042,211	2,042,211	1,921,108	19.6
ALAMCO ハリス グローバル バリュー株ファンド 2007	1,294,284	1,314,900	1,820,610	18.6
スパークス・集中投資・日本株 ファンドS	184,789	220,655	1,241,075	12.6
コムジエスト・ヨーロッパ・ファ ンド 90	631,165	714,274	1,066,196	10.9
さわかみファンド	167,139	167,139	498,042	5.1
(ルクセンブルク)				
キャピタル・グループ・グローバル・ エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ	334	353	1,804,147	18.4
合 計	4,319,924	4,459,533	8,351,182	85.1
銘柄数	6 銘柄		6 銘柄	

(注1) 単位数・口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

## ■投資信託財産の構成 (2022年9月30日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額 (千円)	比 率 (%)
投 資 信 託 受 益 証 券	6,547,034	66.4
投 資 証 券	1,804,147	18.3
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,511,179	15.3
投 資 信 託 財 産 総 額	9,862,360	100.0

(注1) 評価額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。ただし、コール・ローン等、その他の評価額および比率は、投資信託財産総額から他の項目の合計を差し引いたものです。

(注2) 当期末における外貨建資産はありません。

■資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2022年9月30日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	9,862,360,178円
コール・ローン等	1,511,178,074
投資信託受益証券(評価額)	6,547,034,200
投資証券(評価額)	1,804,147,904
(B) 負 債	47,997,289
未払解約金	3,620,581
未払信託報酬	44,235,100
その他未払費用	141,608
(C) 純資産総額(A-B)	9,814,362,889
元 本	3,437,163,933
次期繰越損益金	6,377,198,956
(D) 受益権総口数	3,437,163,933口
1万口当たり基準価額(C/D)	28,554円

(注1) 期首元本額	3,212,688,300円
期中追加設定元本額	361,268,207円
期中一部解約元本額	136,792,574円
(注2) 1口当たり純資産額	2,8554円

■損益の状況  
(2021年10月1日～2022年9月30日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	8円
受 取 利 息	8
(B) 有価証券売買損益	△470,838,359
売 買 益	31,445,381
売 買 損	△502,283,740
(C) 信 託 報 酬 等	△89,014,080
(D) 当期損益金(A+B+C)	△559,852,431
(E) 前期繰越損益金	2,909,015,639
(F) 追加信託差損益金	4,028,035,748
(配当等相当額)	(3,653,396,989)
(売買損益相当額)	( 374,638,759)
(G) 合 計 ( D + E + F )	6,377,198,956
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(G+H)	6,377,198,956
追加信託差損益金	4,028,035,748
(配当等相当額)	(3,653,396,989)
(売買損益相当額)	( 374,638,759)
分配準備積立金	2,909,015,639
繰 越 損 益 金	△559,852,431

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 期末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(0円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(3,653,396,989円)および分配準備積立金(2,909,015,639円)より分配対象額は6,562,412,628円(1万口当たり19,092円)です。分配は行っていません。

■お知らせ

該当事項はありません。

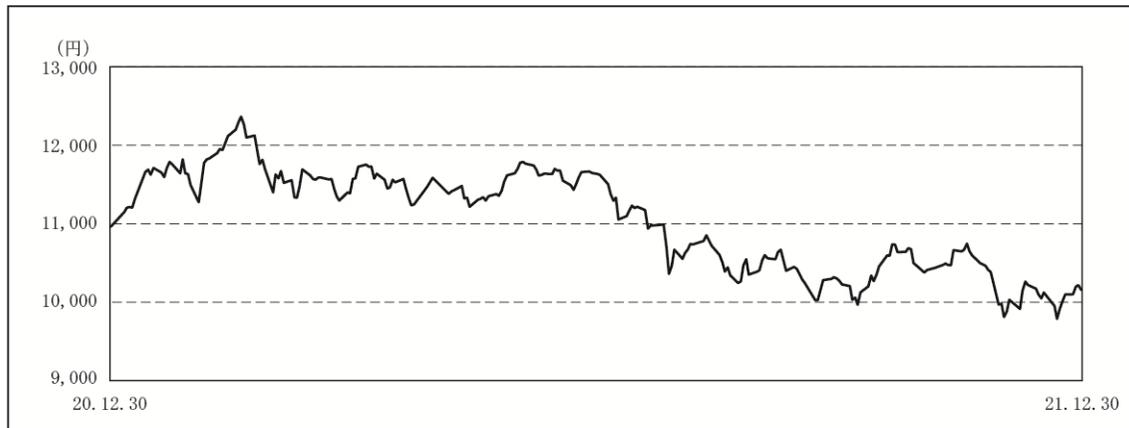
## ■組入投資信託証券の運用内容

当期末時点の組入投資信託証券（組入ファンド）について、当運用報告書（全体版）作成時点において入手可能な直近計算期間に関する情報を記載しています。

### 1 《コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド 95（適格機関投資家限定）》

決算日：2021年12月30日 計算期間：2020年12月31日～2021年12月30日

#### ◎基準価額の推移（2020年12月30日～2021年12月30日）



◎ 1 万口当たりの費用明細 (2020年12月31日～2021年12月30日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	115 (73) (36) (6)	1.045 (0.660) (0.330) (0.055)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式)	7 (7)	0.065 (0.065)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株 式)	6 (6)	0.058 (0.058)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	21 (15) (2) (4)	0.192 (0.133) (0.023) (0.036)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 グローバルな取引主体識別子 (LEI : Legal Entity Identifier) 登録費用、金銭信託手数料、外国株式に関する各種手数料等 (ADR手数料や税務代理人費用等)、インド株式におけるキャピタルゲイン課税、信託事務の処理に要するその他の諸経費等
合計	149	1.360	
期中の平均基準価額は、11,020円です。			

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

(注4) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注5) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

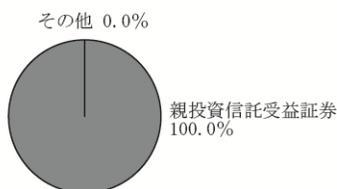
◎組入資産の明細（2021年12月30日現在）

親投資信託残高

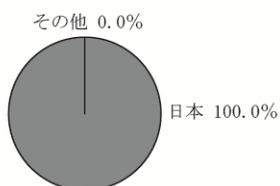
銘柄名	期首 (前期末)	当期末	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド	1,301,754	1,038,334	2,103,769

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

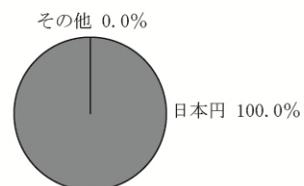
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2021年12月30日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2, 115, 672, 489円
コール・ローン等	11, 902, 912
ニッポンコムジェスト・エマーシング マーケット マザーファンド (評価額)	2, 103, 769, 577
(B) 負 債	11, 775, 651
未払信託報酬	11, 500, 620
未払利息	31
その他未払費用	275, 000
(C) 純資産総額 (A - B)	2, 103, 896, 838
元 本	2, 074, 372, 229
次期繰越損益金	29, 524, 609
(D) 受益権総口数	2, 074, 372, 229口
1万口当たり基準価額 (C/D)	10, 142円

(注1) 期首元本額	2, 572, 967, 083円
期中追加設定元本額	0円
期中一部解約元本額	498, 594, 854円
(注2) 1口当たり純資産額	1. 0142円

◎損益の状況  
(2020年12月31日～2021年12月30日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△5, 434円
支 払 利 息	△5, 434
(B) 有価証券売買損益	△141, 792, 616
売 買 損 益	24, 034, 727
売 買 損 益	△165, 827, 343
(C) 信 託 報 酬 等	△25, 870, 462
(D) 当期損益金 (A+B+C)	△167, 668, 512
(E) 前期繰越損益金	292, 720, 418
(F) 追加信託差損益金	△95, 527, 297
( 配当等相当額 )	( 11, 972, 935)
( 売買損益相当額 )	( △107, 500, 232)
(G) 計 ( D + E + F )	29, 524, 609
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金 (G+H)	29, 524, 609
追加信託差損益金	△95, 527, 297
( 配当等相当額 )	( 11, 972, 935)
( 売買損益相当額 )	( △107, 500, 232)
分配準備積立金	302, 757, 482
繰 越 損 益 金	△177, 705, 576

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(10,037,064円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(11,972,935円)および分配準備積立金(292,720,418円)より分配対象収益は314,730,417円(1万口当たり1,517円)ですが、当期に分配した金額はありません。

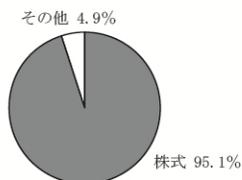
(注5) 当組入ファンドが主要投資対象としています。ニッポンコムジェスト・エマーシングマーケット マザーファンドは、外貨建資産の運用の指図権限をComgest SAに委託しています。その費用として、委託者報酬のうち、販売会社へ支払う手数料を除いた額より、運用権限委託契約に定められた報酬額を支払っています。

◎ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド 組入状況 (2021年12月27日現在)

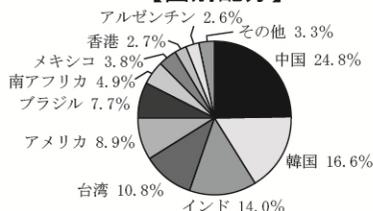
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	情報技術	台湾	米ドル	7.8
2	株式	SAMSUNG ELECTRONICS CO., LTD.	情報技術	韓国	韓国ウォン	5.8
3	株式	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	金融	インド	インドルピー	5.1
4	株式	TENCENT HOLDINGS LTD	コミュニケーション・サービス	中国	香港ドル	4.5
5	株式	INNER MONGOLIA YILI INDUSTRIAL GROUP CO.	生活必需品	中国	中国元	4.4
6	株式	COGNIZANT TECHNOLOGY SOLUTION A ORD	情報技術	アメリカ	米ドル	4.3
7	株式	FOMENTO ECONOMICO MEXICANO	生活必需品	メキシコ	メキシコペソ	3.8
8	株式	LG HOUSEHOLD & HEALTH CARE LTD.	生活必需品	韓国	韓国ウォン	3.5
9	株式	NCSOFT CORPORATION	コミュニケーション・サービス	韓国	韓国ウォン	3.4
10	株式	MIDEA GROUP CO LTD-A	一般消費財・サービス	中国	中国元	3.4
組入銘柄数					36銘柄	

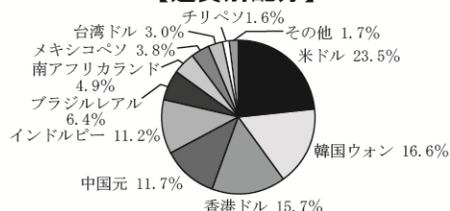
【資産別配分】



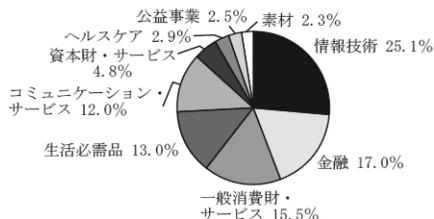
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



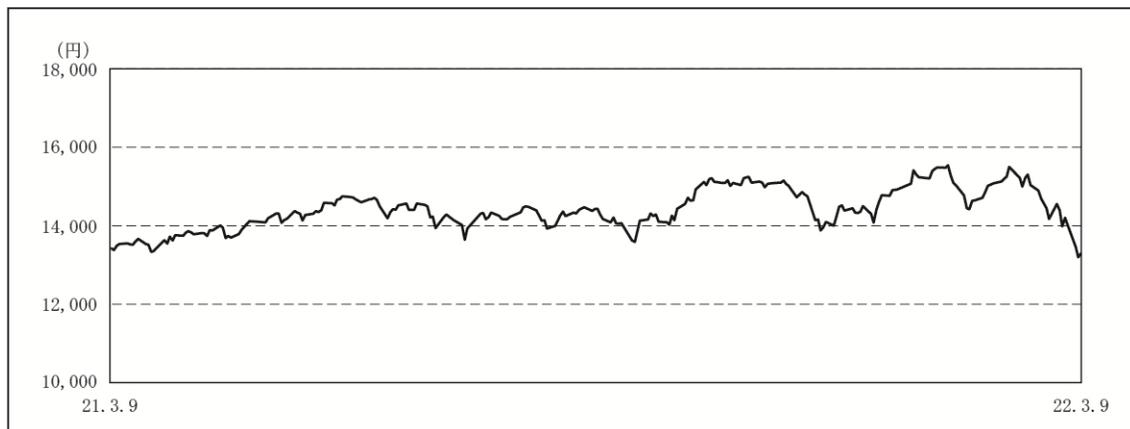
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 資産別配分のその他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

## 2 《ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007（適格機関投資家専用）》

決算日：2022年3月9日 計算期間：2021年3月10日～2022年3月9日

### ◎基準価額の推移（2021年3月9日～2022年3月9日）



◎ 1 万口当たりの費用明細 (2021年 3 月 10 日～2022年 3 月 9 日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	206 (159) (35) (13)	1.430 (1.100) (0.242) (0.088)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式)	3 (3)	0.023 (0.023)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株 式)	3 (3)	0.020 (0.020)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	6 (5) (1) (0)	0.043 (0.035) (0.006) (0.002)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・ 資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	218	1.516	
期中の平均基準価額は、14,426円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含みます。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

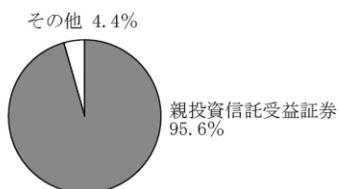
◎組入資産の明細 (2022年3月9日現在)

親投資信託残高

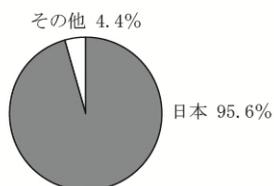
銘柄名	期首 (前期末)	当期末	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ALAMCO ハリス グローバル バリュース マザーファンド	1,254,301	600,572	1,644,188

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

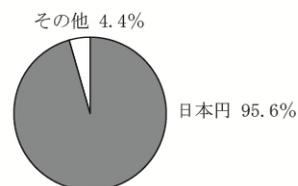
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2022年3月9日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,744,058,633円
コール・ローン等	99,870,320
ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド (評価額)	1,644,188,313
(B) 負 債	24,634,820
未払信託報酬	24,540,247
未払利息	246
その他未払費用	94,327
(C) 純資産総額 (A - B)	1,719,423,813
元 本	1,294,284,318
次期繰越損益金	425,139,495
(D) 受益権総口数	1,294,284,318口
1万口当たり基準価額 (C/D)	13,285円

(注) 期首元本額	2,607,855,080円
期中追加設定元本額	209,222,270円
期中一部解約元本額	1,522,793,032円

◎損益の状況  
(2021年3月10日～2022年3月9日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△10,643円
支 払 利 息	△10,643
(B) 有価証券売買損益	34,553,117
売 買 損 益	253,213,843
売 買 損 益	△218,660,726
(C) 信 託 報 酬 等	△52,933,358
(D) 当期損益金 (A+B+C)	△18,390,884
(E) 前期繰越損益金	248,218,918
(F) 追加信託差損益金	195,311,461
( 配当等相当額 )	( 454,517,813)
( 売買損益相当額 )	( △259,206,352)
(G) 計 ( D + E + F )	425,139,495
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金 (G+H)	425,139,495
追加信託差損益金	195,311,461
( 配当等相当額 )	( 454,737,164)
( 売買損益相当額 )	( △259,425,703)
分配準備積立金	248,218,918
繰 越 損 益 金	△18,390,884

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 信託財産の運用指図にかかる権限の一部を委託するために要した費用として、当組入ファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対して年1万分の65の率を乗じて得た金額を委託者報酬の中から支弁しています。

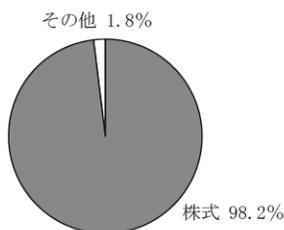
(注5) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (0円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (454,737,164円) および分配準備積立金 (248,218,918円) より分配対象収益は702,956,082円 (1万口当たり5,431円) ですが、当期に分配した金額はありません。

◎ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 組入状況 (2022年3月9日現在)

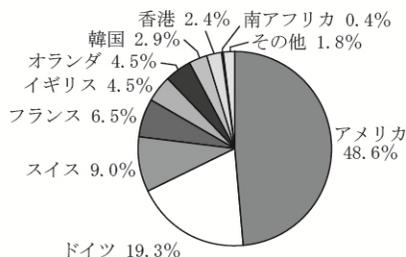
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	アメリカ	米ドル	6.7
2	株式	BAYER AG	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	ドイツ	ユーロ	4.4
3	株式	BERKSHIRE HATHAWAY INC-CL B	各種金融	アメリカ	米ドル	4.4
4	株式	FISERV INC	ソフトウェア・サービス	アメリカ	米ドル	3.8
5	株式	HCA HEALTHCARE INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカ	米ドル	3.4
6	株式	KEURIG DR PEPPER INC	食品・飲料・タバコ	アメリカ	米ドル	3.4
7	株式	AMAZON.COM INC	小売	アメリカ	米ドル	3.4
8	株式	ALLIANZ SE	保険	ドイツ	ユーロ	3.3
9	株式	BNP PARIBAS	銀行	フランス	ユーロ	3.3
10	株式	GLENCORE PLC	素材	イギリス	英ポンド	3.3
組入銘柄数						47銘柄

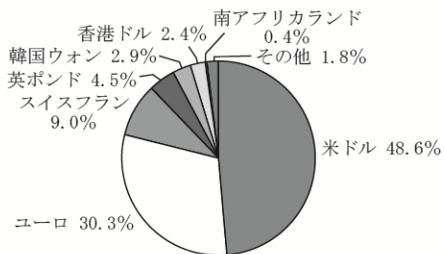
【資産別配分】



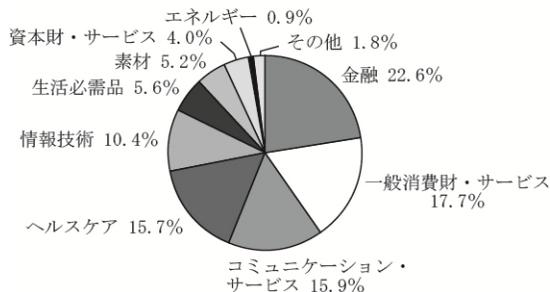
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



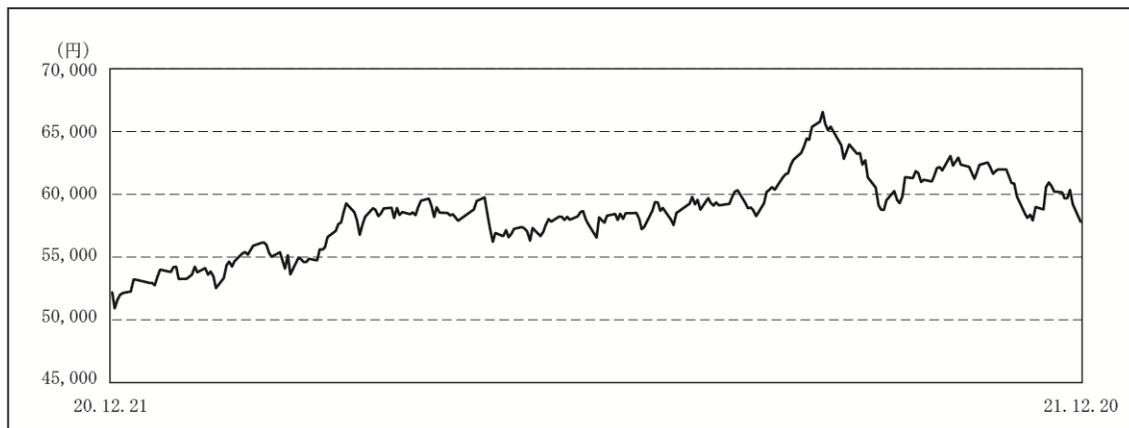
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

### 3 《スパークス・集中投資・日本株ファンドS〈適格機関投資家限定〉》

決算日：2021年12月20日 計算期間：2020年12月22日～2021年12月20日

#### ◎基準価額の推移（2020年12月21日～2021年12月20日）



#### ◎1万口当たりの費用明細（2020年12月22日～2021年12月20日）

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社)	476 (422)	0.823 (0.730)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.055)	
(受託会社)	(22)	(0.038)	
(b) 売買委託手数料 (株式)	29 (29)	0.050 (0.050)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等を売買する際に発生する費用
(c) その他費用 (監査費用)	2 (2)	0.003 (0.003)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	507	0.876	
期中の平均基準価額は、57,818円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 売買委託手数料およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含まず。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

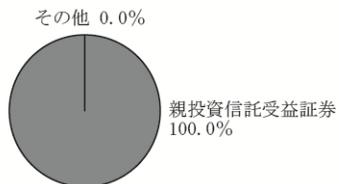
◎組入資産の明細 (2021年12月20日現在)

親投資信託残高

銘柄名	期首 (前期末)	当期末	
	口数 (千口)	口数 (千口)	評価額 (千円)
スパークス集中投資戦略マザーファンド	761,578	931,352	6,192,843

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2021年12月20日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	6,237,329,525円
コール・ローン等	44,486,117
スパークス集中投資戦略 マザーファンド(評価額)	6,192,843,408
(B) 負 債	42,318,193
未払信託報酬	42,125,925
未払利息	121
その他未払費用	192,147
(C) 純資産総額(A-B)	6,195,011,332
元 本	1,071,710,444
次期繰越損益金	5,123,300,888
(D) 受益権総口数	1,071,710,444口
1万口当たり基準価額(C/D)	57,805円

(注) 期首元本額 869,889,073円  
 期中追加設定元本額 201,821,371円  
 期中一部解約元本額 -円

◎損益の状況  
(2020年12月22日～2021年12月20日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△17,667円
支 払 利 息	△17,667
(B) 有価証券売買損益	531,375,855
売 買 益	531,375,855
(C) 信託報酬等	△42,318,072
(D) 当期損益金(A+B+C)	489,040,116
(E) 前期繰越損益金	1,889,074,589
(F) 追加信託差損益金	2,745,186,183
(配当等相当額)	( 2,811,074,656)
(売買損益相当額)	( △65,888,473)
(G) 合 計 ( D + E + F )	5,123,300,888
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(G+H)	5,123,300,888
追加信託差損益金	2,745,186,183
(配当等相当額)	( 2,811,074,656)
(売買損益相当額)	( △65,888,473)
分配準備積立金	2,378,132,372
繰 越 損 益 金	△17,667

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

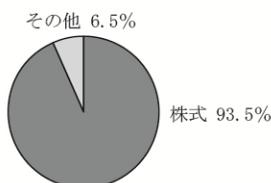
(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

◎スパークス集中投資戦略マザーファンド 組入状況 (2021年12月20日現在)

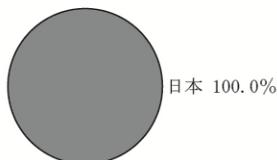
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	MARUWA	ガラス・土石製品	日本	日本円	9.4
2	株式	マックス	機械	日本	日本円	4.8
3	株式	全国保証	その他金融業	日本	日本円	4.8
4	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	4.3
5	株式	竹内製作所	機械	日本	日本円	4.2
6	株式	太陽ホールディングス	化学	日本	日本円	4.1
7	株式	ニチハ	ガラス・土石製品	日本	日本円	4.0
8	株式	ダイレクトマーケティングミックス	サービス業	日本	日本円	3.6
9	株式	シップヘルスケアホールディングス	卸売業	日本	日本円	3.5
10	株式	JCU	化学	日本	日本円	3.4
組入銘柄数				32銘柄		

【資産別配分】



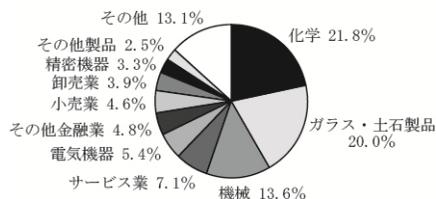
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

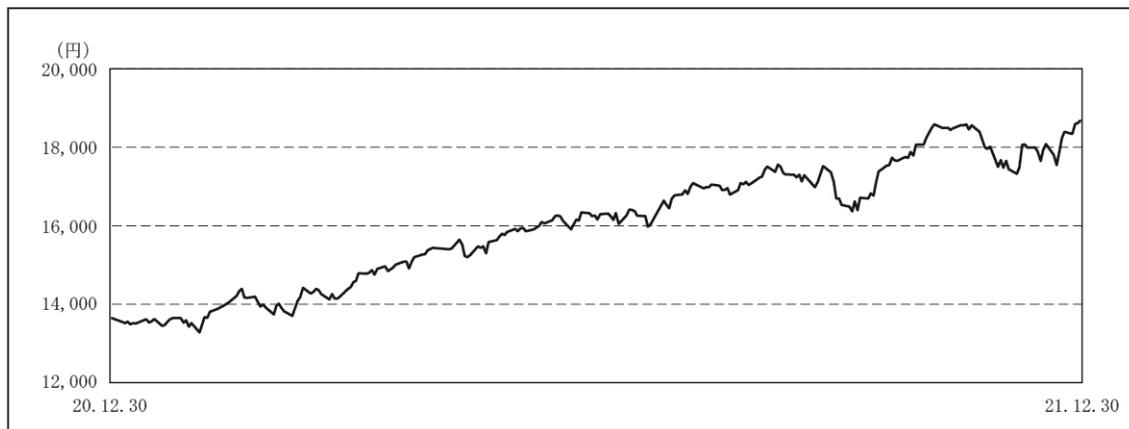
(注2) 資産別配分のその他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 業種別配分のその他は、組入上位10業種以外の業種およびコール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

#### 4 《コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド 90（適格機関投資家限定）》

決算日：2021年12月30日 計算期間：2020年12月31日～2021年12月30日

##### ◎基準価額の推移（2020年12月30日～2021年12月30日）



◎ 1 万口当たりの費用明細 (2020年12月31日～2021年12月30日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	156 (99) (49) (9)	0.990 (0.627) (0.308) (0.055)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式)	2 (2)	0.015 (0.015)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株 式)	4 (4)	0.025 (0.025)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	10 (6) (4) (0)	0.063 (0.035) (0.028) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 グローバルな取引主体識別子 (LEI : Legal Entity Identifier) 登録費用、金銭信託手数料、信託事務の処理に要するその他の諸経費等
合計	172	1.093	
期中の平均基準価額は、15,781円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

(注4) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注5) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

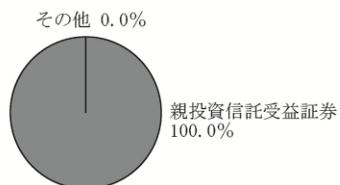
◎組入資産の明細（2021年12月30日現在）

親投資信託残高

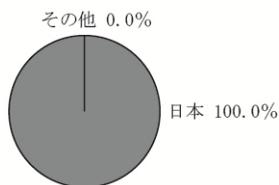
銘柄名	期首 (前期末)	当期末	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザー ファンド	626,816	507,829	2,324,286

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

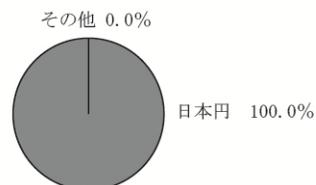
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2021年12月30日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,334,372,878円
コール・ローン等	10,086,827
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド(評価額)	2,324,286,051
(B) 負 債	9,954,061
未払信託報酬	9,679,034
未払利息	27
その他未払費用	275,000
(C) 純資産総額(A-B)	2,324,418,817
元 本	1,245,728,524
次期繰越損益金	1,078,690,293
(D) 受益権総口数	1,245,728,524口
1万口当たり基準価額(C/D)	18,659円

(注1) 期首元本額	1,523,931,475円
期中追加設定元本額	148,418,209円
期中一部解約元本額	426,621,160円
(注2) 1口当たり純資産額	1.8659円

◎損益の状況  
(2020年12月31日～2021年12月30日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△3,845円
支 払 利 息	△3,845
(B) 有価証券売買損益	587,089,572
売 買 損 益	656,106,611
売 買 損	△69,017,039
(C) 信 託 報 酬 等	△20,099,467
(D) 当期損益金(A+B+C)	566,986,260
(E) 前期繰越損益金	352,193,603
(F) 追加信託差損益金	159,510,430
(配当等相当額)	( 70,783,452)
(売買損益相当額)	( 88,726,978)
(G) 計 ( D + E + F )	1,078,690,293
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(G+H)	1,078,690,293
追加信託差損益金	159,510,430
(配当等相当額)	( 70,805,253)
(売買損益相当額)	( 88,705,177)
分配準備積立金	919,179,863

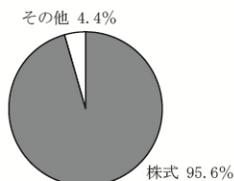
- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
- (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(15,046,728円)、費用控除後の有価証券等損益額(551,939,532円)、信託約款に規定する収益調整金(159,510,430円)および分配準備積立金(352,193,603円)より分配対象収益は1,078,690,293円(1万口当たり8,659円)ですが、当期に分配した金額はありません。
- (注5) 当組入ファンドが主要投資対象としています、ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンドは、外貨建資産の運用の指図権限をComgest SAに委託しています。その費用として、委託者報酬のうち、販売会社へ支払う手数料を除いた額より、運用権限委託契約に定められた報酬額を支払っています。

◎ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド 組入状況 (2021年12月27日現在)

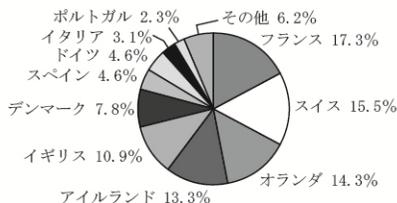
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ASML HOLDING NV	情報技術	オランダ	ユーロ	6.9
2	株式	NOVO NORDISK A/S-B	ヘルスケア	デンマーク	デンマーククローネ	6.2
3	株式	LINDE PLC	素材	イギリス	ユーロ	4.5
4	株式	ICON PLC	ヘルスケア	アイルランド	米ドル	4.5
5	株式	ACCENTURE PLC-CL A	情報技術	アイルランド	米ドル	4.2
6	株式	EXPERIAN PLC	資本財・サービス	イギリス	英ポンド	3.6
7	株式	ESSILORLUXOTTICA	一般消費財・サービス	フランス	ユーロ	3.4
8	株式	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON SE	一般消費財・サービス	フランス	ユーロ	3.2
9	株式	CHOCOLADEFABRIKEN LINDT-PC	生活必需品	スイス	スイスフラン	3.0
10	株式	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	ヘルスケア	スイス	スイスフラン	3.0
組入銘柄数				44銘柄		

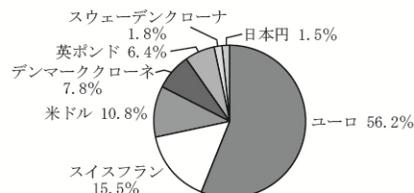
【資産別配分】



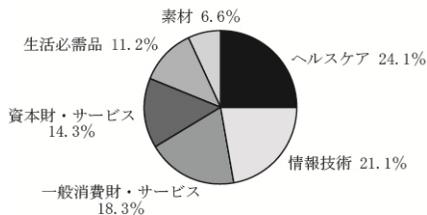
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

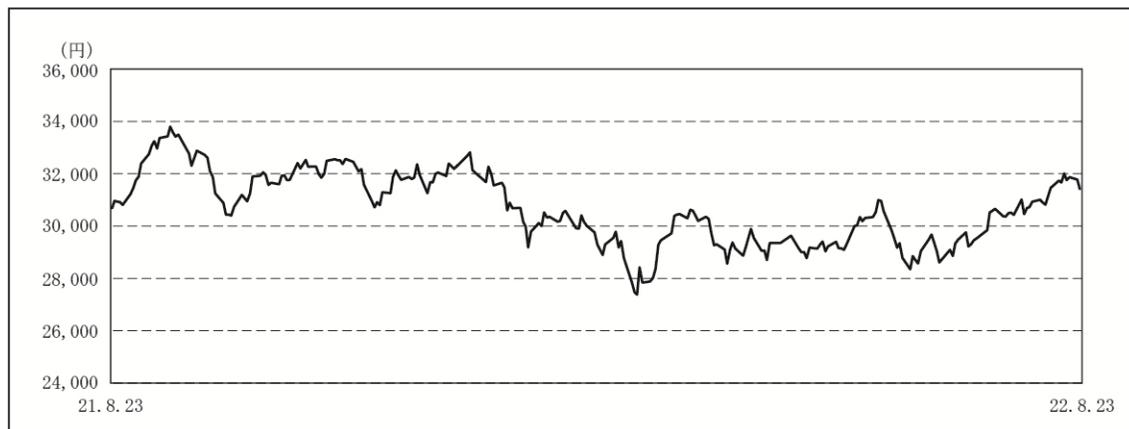
(注2) 資産別配分のその他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国別配分のその他は、ユーロ建ての現金、その他の資産等を含めて表示しています。

## 5 《さわかみファンド》

決算日：2022年8月23日 計算期間：2021年8月24日～2022年8月23日

### ◎基準価額の推移（2021年8月23日～2022年8月23日）



### ◎1万口当たりの費用明細（2021年8月24日～2022年8月23日）

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社)	337 (185)	1.100 (0.605)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(118)	(0.385)	交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(34)	(0.110)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	1 (1)	0.005 (0.005)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託事務の処理に要するその他諸費用
合計	339	1.105	
期中の平均基準価額は、30,661円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

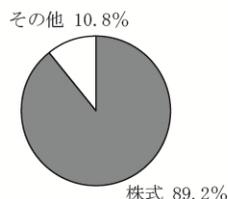
(注3) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

◎組入資産の明細 (2022年 8月23日現在)

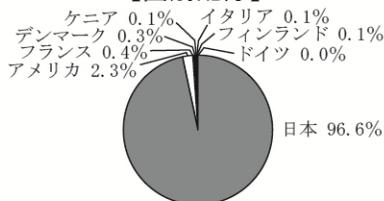
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ダイキン工業	機械	日本	日本円	4.9
2	株式	ブリヂストン	ゴム製品	日本	日本円	4.2
3	株式	日本電産	電気機器	日本	日本円	4.1
4	株式	テルモ	精密機器	日本	日本円	3.7
5	株式	信越化学工業	化学	日本	日本円	3.6
6	株式	浜松ホトニクス	電気機器	日本	日本円	3.5
7	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	日本	日本円	3.1
8	株式	花王	化学	日本	日本円	2.6
9	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	2.5
10	株式	INPEX	鉱業	日本	日本円	2.5
				組入銘柄数		128銘柄

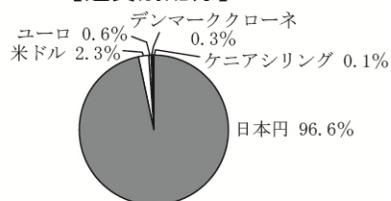
【資産別配分】



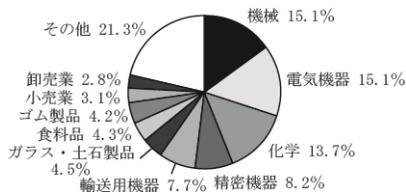
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別配分および業種別配分の比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。ただし、業種別配分のその他の比率は、全体から組入上位10業種の各比率の合計を差し引いたものです。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、当組入ファンドの組入有価証券の評価額の合計に対する各評価額の割合です。

(注3) 外国株式の業種は、当組入ファンドの委託会社の基準により、東証33業種に振り替えて表示しています。

(注4) 資産別配分のその他は、現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

(注5) 業種別配分のその他は、組入上位10業種以外の業種および現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況  
(2022年8月23日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	351,267,800,994円
コール・ローン等	38,025,826,308
株式(評価額)	312,313,750,143
未 収 入 金	200,803,563
未 収 配 当 金	727,420,980
(B) 負 債	1,192,409,852
未 払 金	6,719,200
未 払 解 約 金	256,352,018
未 払 信 託 報 酬	929,338,634
(C) 純資産総額(A-B)	350,075,391,142
元 本	111,373,747,088
次期繰越損益金	238,701,644,054
(D) 受益権総口数	111,373,747,088口
1万口当たり基準価額(C/D)	31,432円

(注1) 期首元本額	110,803,276,529円
期中追加設定元本額	5,327,931,351円
期中一部解約元本額	4,757,460,792円
(注2) 1口当たり純資産額	3,1432円

◎損益の状況  
(2021年8月24日～2022年8月23日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	6,269,156,354円
受 取 配 当 金	6,284,115,259
受 取 利 息	704,577
支 払 利 息	△16,130,512
そ の 他 収 益 金	467,030
(B) 有価証券売買損益	5,720,802,098
売 買 益	31,105,293,753
売 買 損	△25,384,491,655
(C) 信 託 報 酬 等	△3,738,585,759
(D) 当期損益金(A+B+C)	8,251,372,693
(E) 前期繰越損益金	147,315,911,698
(F) 追加信託差損益金	83,134,359,663
(配当等相当額)	( 109,363,481,059)
(売買損益相当額)	( △26,229,121,396)
(G) 合 計 ( D + E + F )	238,701,644,054
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(G+H)	238,701,644,054
追加信託差損益金	83,134,359,663
(配当等相当額)	( 109,363,481,059)
(売買損益相当額)	( △26,229,121,396)
分配準備積立金	155,567,284,391
繰 越 損 益 金	0

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

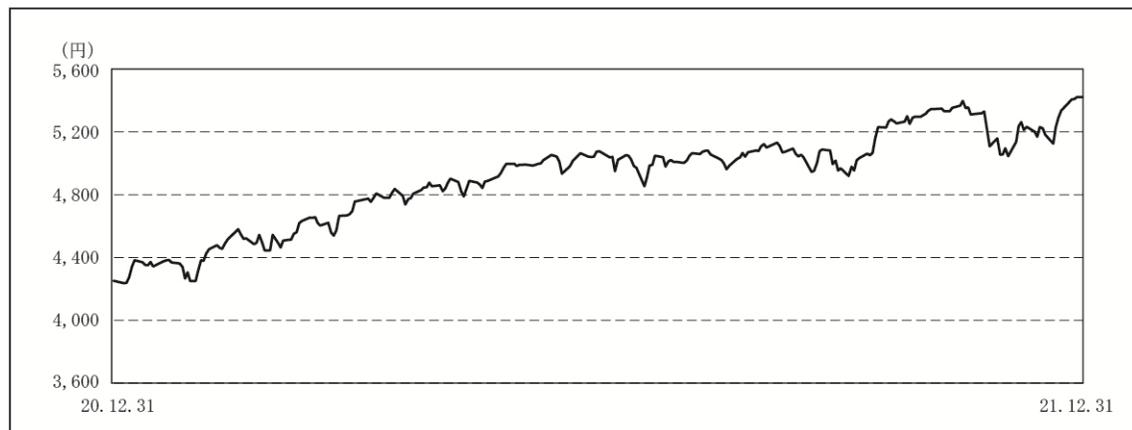
(注4) 期末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(4,314,249,861円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(3,937,122,832円)、信託約款に規定される収益調整金(109,363,481,059円)および分配準備積立金(147,315,911,698円)より分配対象額は264,930,765,450円(1万口当たり23,787円)です。分配は行っていません。

## 6 《キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ》

決算日：2021年12月31日 計算期間：2021年1月1日～2021年12月31日

※当組入ファンドにかかる各内容（基準価額の推移を除く）は、キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）全体のものです。

### ◎基準価額の推移（2020年12月31日～2021年12月31日）

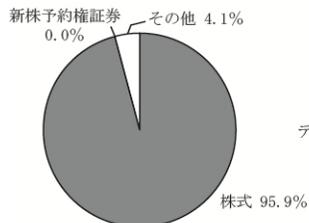


## ◎組入資産の明細（2021年12月31日現在）

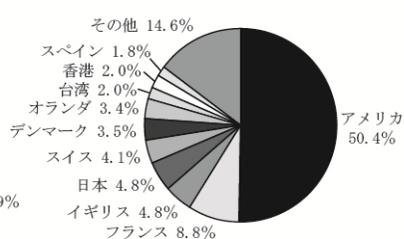
主たる投資対象の組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	Broadcom, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.3
2	株式	ASML Holding NV	情報技術	オランダ	ユーロ	2.3
3	株式	Microsoft Corp.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.2
4	株式	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd., ADR	情報技術	台湾	米ドル	2.0
5	株式	Apple, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	1.9
6	株式	UnitedHealth Group, Inc.	ヘルスケア	アメリカ	米ドル	1.7
7	株式	Novo Nordisk A/S 'B'	ヘルスケア	デンマーク	デンマーククローネ	1.7
8	株式	AstraZeneca plc	ヘルスケア	イギリス	英ポンド	1.4
9	株式	Alphabet, Inc. 'A'、'C'	コミュニケーション・サービス	アメリカ	米ドル	1.3
10	株式	Visa, Inc. 'A'	情報技術	アメリカ	米ドル	1.3
				組入銘柄数		176銘柄

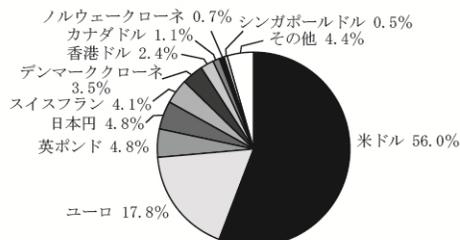
【資産別配分】



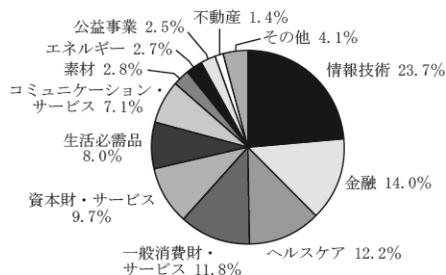
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 比率は、純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) 同一会社の株式は、それぞれまとめて1銘柄として組入比率および組入銘柄数を表示しています。

(注3) 現金、その他の資産等（主たる投資対象以外の資産を含む）は、その他に含めて表示しています。

◎資産、負債および純資産の状況 (2021年12月31日現在)

(ユーロ)

<b>Assets</b>	
Investments at market value	895, 158, 461
Cash at bank and broker	28, 250, 383
Dividend and interest receivable (net of withholding taxes)	759, 910
Receivable for fund shares subscribed	172, 640
Unrealised gain on forward and hedged share class forward currency exchange contracts	4, 497
Receivable for investments sold	184, 378
Prepaid expenses and other receivables	294, 673
<b>Total assets</b>	<b>924, 824, 942</b>
<b>Liabilities</b>	
Unrealised loss on forward and hedged share class forward currency exchange contracts	227, 934
Payable for fund shares redeemed	564, 884
Management fee payable	212, 161
Accrued expenses and other payables	461, 776
Dividend payable to shareholders	3, 787
Bank overdrafts and cash at brokers	160, 493
<b>Total liabilities</b>	<b>1, 631, 035</b>
<b>Total net assets</b>	<b>923, 193, 907</b>
<b>Investment securities at cost</b>	<b>654, 563, 444</b>

◎損益の状況 (2021年1月1日～2021年12月31日)

	(ユーロ)
<b>Income</b>	
Dividend income (net of withholding taxes)	13,076,683
Other income	11,610
Interest on bank accounts	14,590
	<b>13,102,883</b>
<b>Expenses</b>	
Management fees	2,261,359
Administrative Manager services	441,079
Taxe d'abonnement	220,650
Professional services	250,328
Depositary and custody	164,417
Other	30,215
Printing and publishing	35,449
	<b>3,403,497</b>
Reimbursement of expenses	50,448
<b>Net investment income/(loss) for the year (a)</b>	<b>9,749,834</b>
Net realised gain/(loss) on:	
Sale of investments	55,474,122
Foreign currency transaction	1,542,305
<b>Net realised gain/(loss) for the year (b)</b>	<b>57,016,427</b>
Net change in unrealised appreciation/(depreciation) on:	
Investments	104,771,724
Foreign currency transactions	(360,580)
<b>Net change in unrealised appreciation/(depreciation) for the year (c)</b>	<b>104,411,144</b>
<b>Result of operations for the year (a+b+c)</b>	<b>171,177,405</b>
<b>Dividend distributions</b>	<b>(534,522)</b>
Net subscriptions/(redemptions) of shares for the year	36,691,612
Total net assets at the beginning of the year	715,859,412
<b>Total net assets at the end of the year</b>	<b>923,193,907</b>

## ■直接販売の状況

コロナショック後の株価上昇が収まり、インフレや景気減速懸念が拡大した当期の新規口座開設数は148件と前期比で18件減少しました。その一方で口座閉鎖数が53件（前期比△46件）と大きく減少したことから、当期末（2022年9月30日）の全口座数は前期末比+95件（2.6%）の3,731件となりました。当期中に閉鎖された口座の割合は1.4%（前期比△1.2ポイント）と引き続きかなり低く、閉鎖されずに継続している割合（継続率）は、ファンド設定から当期末までに開設いただいた全ての口座で86.8%と高水準を維持しました。第1期（～2009年9月30日）に開設いただいた口座でも85.5%が継続されており、長期でご利用されているお客さまが多いことは変わりません。

また、「定期定額購入サービス」のご利用は全体の73.7%にあたる2,750件（前期末比+51件）と引き続き高い水準を保っています。

このように、定期定額購入サービスを利用して長期で投資されるお客さまの比率が極めて高いことが、弊社の特徴であり、強みでもあります。

基準価額は、不安定な株式市場の影響を受けて30,000円を挟んだ比較的値動きの荒い推移となりましたが、そのような状況でも多くのお客様が「つみたて投資」を継続してくださいました。定期定額購入による入金額は、月度平均で7,643万円（前期比+7.4%）と設定来13期連続の増加となり、年間額は9億1,717万円と初めて9億円を超えました。スポット購入を合わせた年間の資金流入（買付）の総額も、前期比+10.1%（9,891万円）の10億8,027万円と大幅に増加しました。前期急増した資金流出（解約）額は年間で4億1,190万円（前期比△47.1%）とほぼ半減したことで、資金流出（解約）額を差し引いたネットの金額は+6億6,836万円（前期比+229.8%）と前期の3倍強の純流入となり、設定来14期連続で純流入を達成することができました。月次ベースでは基準価額が最高値更新となった10月に大口の解約が重なったことで純流出となってしまいましたが、以降の11ヶ月は月度資金純流入となっています。

ユニオンファンドの純資産総額は、お客様からの安定した入金による資金の純流入に支えられて、基準価額が上値を抑えられている中でも着実に成長を続け、設定13周年の前日となる10月19日に100億円を突破することができました。当期末の純資産総額は、基準価額が期末の急落により前期比△5.5%と下落したにも関わらず、98億1,436万円と前期末より1.0億円（1.1%）の増加となりました。総口数も前期末より7.0%も増加しており、弊社の経営理念や運用哲学にご賛同いただいた多くの皆様によってユニオンファンドが育てられていることを示しております。

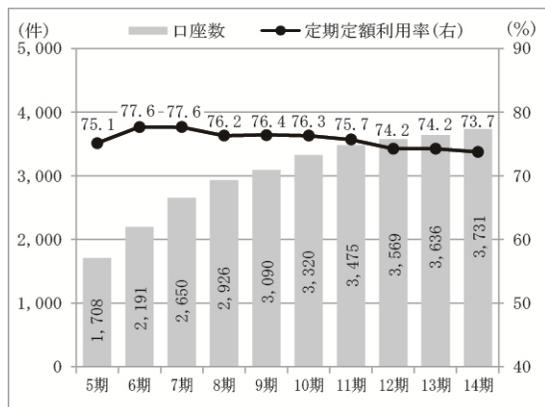
弊社は、働く仲間とその家族の方々のお手伝いをさせていただくべく設立された資産運用会社です。主にセミナーや個別相談等お客様と直接接点を持ちながら、「生涯投資」・「グローバル投資」・「つみたて投資」の有効性や魅力、そして「これからの明るい未来のために自らの意志で自らのお金を世の中に活かすこと」の大切さをご説明しております。

ユニオンファンドの成長が皆様それぞれの自分らしい人生を過ごすための生涯資産づくりに活かされていくWin-Winの関係を築くことができるのであれば、これほど幸せなことはありません。

これからも、ユニオンファンドは皆様の“生涯投資の道”の頼もしいパートナーであるべく、丁寧に丁寧に運用して参る所存です。

（注）各金額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。

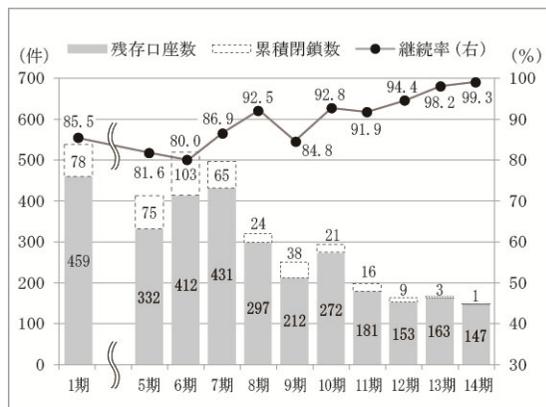
## 各期末現在の残存口座数および定期定額購入利用率



(注) 利用率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

## 決算期別口座開設数および継続率

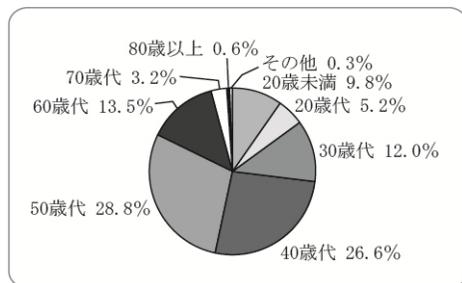
(2022年9月30日現在)



(注) 継続率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

## 年代別口座比率

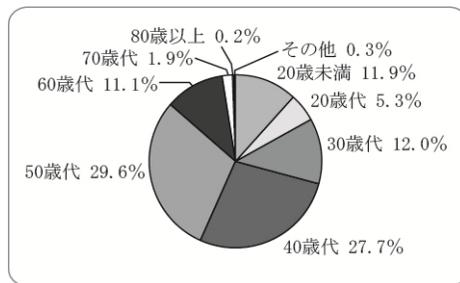
(2022年9月30日現在 総数3,731件)



(注) 比率は、全口座数に対する各年代の口座数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

## 年代別定期定額購入利用者比率

(2022年9月30日現在 総数2,750件)



(注) 比率は、全利用者数に対する各年代の利用者数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

## 年代別定期定額購入1回当たりの平均引落額 (2022年9月30日現在)

年代別引落額平均 (月次) (単位: 円)			
20歳未満	11,592	50歳代	33,479
20歳代	18,960	60歳代	34,583
30歳代	24,083	70歳代	31,437
40歳代	28,082	80歳以上	27,500

(注) 1回当たりの平均引落額は、次の式で算出し、円未満切捨てで表示しています。

(当該年代の毎月の契約金額の合計×12+当該年代の増額月の契約金額の合計) ÷ 12 ÷ 当該年代の利用者数